

第23回果樹ウイルス性病害の国際会議 (ICVF2015 Morioka) の開催報告

岩手大学農学部

吉川 信幸 (よしかわ のぶゆき) ・ 磯貝 雅道 (いそがい まさみち)

はじめに

平成27年6月8日(月)～12日(金)に第23回果樹ウイルス性病害の国際会議(23rd International Conference on Virus and Other Graft Transmissible Diseases of Fruit Crops, ICVF2015)を、盛岡市アイーナを会場に開催したのでご報告する。ICVFは世界各国の果樹・小果樹のウイルス研究者が一堂に集い、落葉果樹(リンゴ、ナシ、オウトウ、モモ、アズキ、スモモ、オリーブ等)と小果樹(イチゴ、キイチゴ類、ブルーベリー等)のウイルス病・ファイトプラズマ病に関する研究を国際的に協調しながら推進することを目的に開催されている。これまで、第1回のスイス(開催年1954)から、オランダ(1955)、英国(1956)、デンマーク(1960)、イタリア(1962)、ユーゴスラビア(1965)、ドイツ(1967)、フランス(1970)、英国(1973)、ドイツ(1976)、ハンガリー(1979)、カナダ(1982)、フランス(1985)、ギリシャ(1988)、オーストリア(1991)、イタリア(1994)、米国(1997)、英国(2000)、スペイン(2003)、トルコ(2006)、ドイツ(2009)そしてイタリア(2012)と、3年ごとにヨーロッパを中心に開催されてきたが、今回、筆者らが果樹研究所リンゴ研究拠点の伊藤 伝氏、八重樫 元氏、弘前大学 佐野輝男教授、法政大学 大島研郎教授とともに実行委員会(委員長 吉川信幸)を組織し、日本(盛岡市)での開催を企画した。60年に及ぶICVFの歴史の中で、アジアでの開催は初めてである。

海外(21か国)から約60名の果樹・小果樹ウイルス

の研究者、国内の研究者と学生を含めて約100名の参加があった。参加国はオランダ、英国、チェコ、フランス、ルーマニア、スロヴェニア、オーストリア、スペイン、ギリシャ、ドイツ、ノルウェー、トルコ、チュニジア、アフガニスタン、ニュージーランド、チリ、メキシコ、カナダ、米国、インド、中国、日本であった。ヨーロッパから遠く離れた日本での開催のため、どの程度の参加者があるのか当初心配していた。前回(2012)のイタリア(ローマ)会議(ファイトプラズマのワークショップを同時開催)(約150名)と比較すると参加者数は少なかったが、中国からは10数名の参加者があり、これまでのICVFの会議は日本を含めてアジアからの参加者が0～数名であったことを考えると、日本で開催した目的の一つは達成されたことになる。

I プログラム

会議の前夜(7日)の“ウェルカムドリンク”には、海外からの出席者30名ほどが参加し、3年ぶりの再会に時間を忘れて会話が盛り上がっていた。研究発表は8日(月)から始まり(図-1)、エクスカージョンの日を含めて5日間にわたって招待・特別講演6題、口頭発表40題、ポスター発表41題の講演・発表があった。招待・特別講演は次の通りである。

- 岩波 徹(農研機構・果樹研究所リンゴ研究拠点)：
Occurrence and countermeasures of citrus greening in the sub-tropical islands of Japan.
- 難波一郎(神戸植物防疫所)：Plant quarantine system for virus diseases of fruit crops in Japan.
- 兼松聡子・八重樫 元(農研機構・果樹研究所リンゴ研究拠点)：Mycoviruses in *Rosellinia necatrix*：Features of potential virocontrol agents.
- 吉川信幸(岩手大学農学部)：Apple latent spherical

Report on the 23th International Conference on Virus and Other Graft Transmissible Diseases of Fruit Crops. By Nobuyuki YOSHIKAWA and Masamichi ISOGAI

(キーワード：果樹・小果樹ウイルス病、国際会議、ICVF)